

# 第5学年 国語科学習指導案

指導者 馬場直幸

- I 単元名 読んだ本をすいせんしよう  
 中心学習材 千年の釘にいどむ(光村 五)  
 補助学習材 人の仕事や技について書かれた本

## II 単元の指導構想

### 1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」ことである。

### 2 教材について

本単元は、「C 読むこと」の「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」を重点的な指導事項とする。そのために、言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」をより具現化し、「推薦文を書く」という言語活動を設定する。

具体的には、「人の仕事や技について書かれた」本を並行読書で読み、その中から6年生にすすめたい本を選んで推薦文として書きまとめる言語活動を位置付ける。

推薦とは、人や物などの優れているものに薦めることととらえる。また、人に推薦するためには、1冊の本を読むだけでなく、複数の本を読み、比較することを通してよりよい本を選ぶことも必要となってくる。

推薦文はいろいろな形式のものが考えられるが、子どもたちのこれまでの学習経験と付けたい力をもとに、次のような構成要素で書きまとめさせていく。

- 推薦文の構成要素
- ① 本や人の紹介
  - ② 心に残ったこと
  - ③ 推薦者の思い
  - ④ 読んでほしい人や時

### 3 子どもについて

子どもたちはこれまでの「読むこと」の学習において、目的に応じて本を選んで読み、自分の考えを紹介文や感想文にまとめて発表する言語活動に取り組んできた。また、読書についてのアンケート結果から、「本を読むことが好き」と答えた子どもは、学年全体の9割をこえていることが分かっている。以上のことから子どもたちは、進んで読書に親しむとともに、書かれている内容の中心となる語や文をとらえながら読む力が少しずつ身に付いてきている。

しかし、平成26年度実施の学力調査の結果から「読むこと」領域では、複数の文章を比べて読み、自分の考えをまとめる力に弱さが見られた。授業での子どもたちの様子からも、文章を読んで自分の考えを表現することができずにいる子どもも見受けられる。また、読書履歴を見ると、全体的に物語を好んで読む子どもが多いことがわかった。

そこで、本単元の学習では、子どもたちに目的に応じて複数の本を読み比べながら、自分の考えをまとめる力を高めていく必要がある。

- 【既習の力】
- 内容の大体を読む力 … ①本や人の紹介  
②心に残ったこと
  - 文章の内容と自分の経験とを結び付けて考えをまとめる力 … ④読んでほしい人や時

- 【言語活動を通して付けたい力】
- 本や文章を読んで自分の考えをまとめる力 … ③推薦者の思い
  - 目的に応じて複数の本や文章を比べて読む力 … ①本や人の紹介

### 4 復興教育(3つの教育的価値)との関連

- (1) 生命の大切さや心のあり方について【いきる】「⑤やり抜く強さ」とのかかわり  
 「千年の釘にいどむ」を読み、白鷹さんの職人としての考えにふれることを通して、困難な状況にあっても決してあきらめず、自分のやるべきことを最後までやり通そうとする強い気持ちをもつことができるようにする
- (2) 人のきずなの大切さについて【かかわる】「⑨仲間や地域の人々とのつながり」とのかかわり  
 「千年の釘にいどむ」や「人の仕事や技について書かれた本」を読み、互いの考えのよさを学び合ったり、本を薦めたりする活動に取り組むことによって、仲間とのつながりを再確認し、友達の大切さやありがたさを実感することができるようにする。

### Ⅲ 単元の指導計画

#### 1 目標

##### (1) 関心・意欲・態度

「千年の釘にいどむ」や「人の仕事や技について書かれた本」を進んで読んだり、6年生に推薦するための文章を書く活動に積極的に取り組んだりしようとする。

##### (2) 読むこと

「千年の釘にいどむ」や「人の仕事や技について書かれた本」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(Cオ)

6年生に読んだ本を推薦するという目的をもちながら複数の本を読み、伝えたいことを見つけることができる。(Cカ)

##### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

文章の中で語句と語句との関係を理解することができる。(イ(オ))

#### 2 評価規準

##### (1) 国語への関心・意欲・態度

①自分が推薦しようと考えた理由を明らかにしながら「千年の釘にいどむ」や「人の仕事や技について書かれた本」を読み返したり、推薦文を書いたりしようとしている。

##### (2) 読む能力

②友達の本の推薦を聞き、感じたことや考えたことがどのように共通していたり違っていたりしているのかを明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりしている。

③「人の仕事や技について書かれた本」を読み、6年生に推薦するという目的をもちながらその本のよさを見つけて読んでいる。

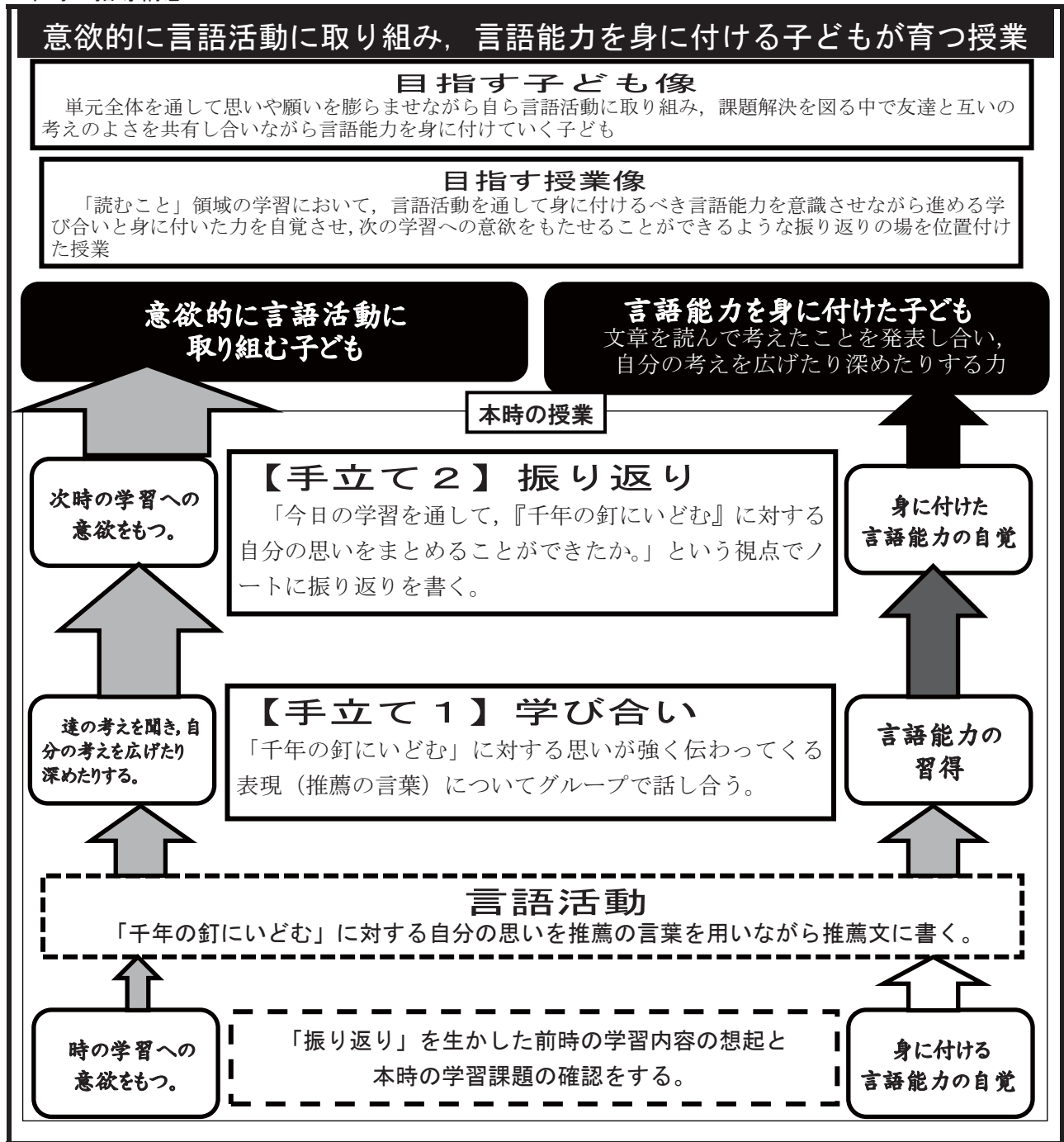
##### (3) 言語についての知識・理解・技能

④文章を特徴付ける語句に気付き、語句同士の関係を理解しながら読んでいる。

#### 3 指導計画 (全8時間)

次	時	主な学習活動	「学び合い」 <input type="checkbox"/> と「振り返り」 <input type="checkbox"/> のポイントと内容	指導上の留意点と評価
一	1 2	○これまで行ってきた学習や言語活動を振り返る。 ○推薦文と感想文の違いについて考える。 ○推薦文に書く内容を確認する。 ○「読んだ本をすいせんしよう」という単元の学習のめあてをもつ。 ○「千年の釘にいどむ」の範読を聞き、感想を交流する。 ○学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ。		・言語活動履歴の中から本の紹介カードや感想文を書いた経験を想起させる。 ・教師がモデル文を提示することにより、子どもたち自らが構成要素に気付くことができるようにする。 ・本を薦めてもらおうと読書意欲が増すことに気付かせ、もっと友達に本を薦めてみたいという思いを引き出す。 ・感想を交流する中で、「職人」「仕事」「生き方」「技」などの言葉を取り上げ、「人の仕事や技について書かれた本」を並行読書で読み、推薦する活動を行うことを共通理解する。 【評価①】
「人の仕事や技について書かれた本」を読み、6年生にすいせんする文章を書こう。				
二	3	○「千年の釘にいどむ」を読み、推薦文の中の「本や人の紹介」と「心に残ったこと」を書く。	展開の中盤の場面で、心に残ったことについて整理するためのグループ学習を位置付ける。  心に残ったことという視点で振り返りをさせる。	・「本や人の紹介」は、年代や場所、職業や仕事内容など、文章や写真等からわかることについて書くことを確認する。 ・本を推薦するための推薦の言葉の中の感想にかかわる言葉を使いながら書かせるようにする。 ・「心に残ったこと」は、白鷹さんの行動や考えたことを表す文に着目させながら選ぶことができるようにする。 【評価③④】
	4 本時	○「千年の釘にいどむ」を読み、推薦文の中の「推薦者の思い」を書く。	展開の中盤の場面で、思いが強く伝わってくる表現について検討するためのグループ学習を位置付ける。  「千年の釘にいどむ」に対する自分の思いという視点で振り返りをさせる。	・文章の中の白鷹さんの行動や会話文、心情を表す言葉などに着目させ、前時に書いた「心に残ったこと」を基にしながら素晴らしいと感じたところや感動したところを中心に書かせるようにする。 ・書くときには、推薦の言葉の中の人物にかかわる言葉を積極的に使うように促す。 【評価②】
	5	○「千年の釘にいどむ」を読み、推薦文の中の「読んでほしい人や時」を書く。  ○これまで書いてきた文章を読み直し、推薦文の構成を考える。	展開の中盤の場面で、本を読んでほしい人や時について検討するためのグループ学習を位置付ける。  「千年の釘にいどむ」を読んでほしい人や時という視点で振り返りをさせる。	・グループでの活動を位置付け、友達と考えを交流することにより、「これから新しいことを始めようとしている人」「元気を出したいとき」など、相手の立場に立って推薦の文章を書くことができるようにする。 ・どの順番で話したら相手によく伝わるか考えさせながら構成を組み立てる。 【評価②】
三	6 7	○これまで読んできた「人の仕事や技について書かれた本」の中から進めたいものを1冊選び、推薦文を書く。	展開の後半の場面で、構成要素や相手によく伝わる表現について検討するためのグループ学習を位置付ける。	・「千年の釘にいどむ」で推薦文を書いた経験を想起させることにより、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 【評価①】
	8	○6年生に「人の仕事や技について書かれた本」を推薦する。	本単元の学習を通してできるようになったことという視点を与えて単元の学習の振り返りをさせる。	・声の大きさや抑揚、目線などにも気を付けながら、自分が伝えたいことがよく伝わるように6年生に自分が選んだ本を推薦することができるようにする。 【評価①】

IV 本時の指導構想



V 本時の指導計画

1 目標

白鷹さんがしたことや考えたことに着目しながら「千年の釘にいどむ」を推薦するための自分の思いをまとめ、話し合いを通して考えを広げたり深めたりすることができる。

2 評価規準

B	努力を要する子どもへの支援
「千年の釘にいどむ」を読み、白鷹さんの仕事や考え方のすばらしさを推薦の言葉を用いながら自分の思いを文章にまとめている。	「千年の釘にいどむ」の白鷹さんの行動や会話文の中から心に残った言葉や文とそれに合う推薦の言葉を教師とともに選び、自分の考えを書かせるようにする。

3 展開

段階	学習活動	時間	研究にかかわる手立て	指導上の留意点と評価	
導入	1 前時の学習内容を振り返る。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習への意欲化を図るために、前の時間にノートに書いた振り返りを活用しながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時は、「千年の釘にいどむ」を推薦する文章の中の「本や人の紹介」と「心に残ったこと」を書いたことを確かめる。</li> </ul>	
	2 本時の学習課題を確認する。	5			
「千年の釘にいどむ」をすいせんするために、作品に対する自分の思いをまとめよう。					
展開	3 「千年の釘にいどむ」に対する自分の思いをまとめて書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>&lt;予想される子どもの考え&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白鷹さんのすばらしいところは、何本も釘を作り直したところです。</li> <li>千年前の職人たちに負けるわけにいかないと考える白鷹さんはとても魅力的な人です。</li> <li>白鷹さんの職人としての意地に圧倒されました。</li> </ul> </div>	8	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>推薦の言葉 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①感想にかかわる言葉 すばらしい、感動、心が動いた、魅力あふれる、力強い、びったり、印象深い、おどろき等</li> <li>②人物にかかわる言葉 才能あふれる、ち密、素敵な、最高、模範的、すぐれた、尊敬等</li> <li>③本の価値にかかわる言葉 名作、傑作、見事、生き生きと、躍動感等</li> <li>④人物と比較する言葉 真似できない、たどり着けない、類を見ない等</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時にまとめた「心に残ったこと」を読み直し、関係付けながら書かせるようにする。</li> <li>第1次で確認した「感動的な」「すぐれた」などの推薦の言葉の中の感想にかかわる言葉を使って書くように促す。</li> <li>書くことができずに困っている子どもには、前時に書いた「心に残ったこと」を読み直し、「千年の釘にいどむ」を進めるためにはどの感想にかかわる言葉がびったりか教師とともに選ばせて自分の考えを書かせるようにする。</li> <li>書いた自分の考えをグループで発表し合い、自他の考えのよさに気付くことができるようにする。</li> <li>友達の発表を聞く際には、推薦の言葉の中の感想にかかわる言葉がどこに、いくつ使われているか見つけながら聞くようにさせる。</li> </ul>	
	4 「千年の釘にいどむ」に対する思いについて話し合う。 (1) 「千年の釘にいどむ」に対する思いをグループで発表し合う。  (2) 「千年の釘にいどむ」に対する思いについてグループで話し合う。	4  12			【手立て1】 学び合い
	どの言葉から書いた人の「千年の釘にいどむ」に対する思いが強く伝わってきますか。また、思いを表すのもっとびったりの言葉はありますか。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>予想される子どもの考え&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aさんの「すばらしい」という言葉がいいと思いました。</li> <li>白鷹さんのことを「尊敬に値する」と書いていて、私も同じ考えだと思いました。</li> <li>「感動した」よりは、「心が大きく動いた」の方が思いが強く伝わると思います。</li> </ul> </div>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「千年の釘にいどむ」に対する思いを綴った文章をグループ内で発表し合い、推薦の言葉を中心にしながらよりよい表現について考えさせることにより、本時で付けた力である自分の考えを広げたり深めたりする力を付けていく。</li> <li>○グループの友達と話し合うことを通して、自分の考えが広がったり深まったりすることを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の一人一人の文の中に用いられている推薦の言葉を探し、それぞれのよさを認め合ったり、もっとびったりの言葉を考えたりすることにより、推薦の言葉を使って書くことのよさに気付かせたり、自分の文章に効果的に生かして書いたりすることができるようにする。</li> <li>友達の考えを聞いて、自分の考えが変わった子どもには、加筆したり修正したりしてもよいことを伝える。</li> </ul>	
終末	5 本時の学習を振り返る。	5	【手立て2】 振り返り		
	グループでの話し合いも振り返りながら、「千年の釘にいどむ」に対する自分の思いをまとめることができたかノートに書きましょう。				
	6 次時の学習の見通しをもつ。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身に付けるべき言語能力に沿った視点を与えて振り返りをノートに書かせ、身に付けた力を自覚させたり、次時の学習への意欲を高めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを伝えるために推薦の言葉を用いながら書くことのよさや友達の考えにふれることのよさについて記述している子どもの発表を取り上げ、全体に広げることにより、身に付けた言語能力の自覚化を促す。</li> </ul>	